

科目分類	専門職の教育			開講学科	医療栄養学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
13096	2	前期	必修	1	15
授業科目名 (英文)	総合学習Ⅱ（食べ物・栄養と疾病・治療） (Integrated Study Ⅱ)				
担当教員名	大館 順子				
授業の概要及び到達目標					
<p>○概要：栄養学 concepts、消化・吸収の調節機構、各栄養素の食事摂取基準の設定根拠、糖質・脂質の摂取と生活習慣病との関連などについて、講述および学生主体の課題への取り組みにより、理解を深める。</p> <p>○到達目標：栄養学 concepts、消化・吸収の調節機構、糖質・脂質の摂取と生活習慣病との関連などについて説明できる。各栄養素の食事摂取基準の設定根拠について概説できる。</p>					
準備学習等					
<p>毎回、該当箇所のテキストページを読み、既習の内容については、主に授業前課題に取り組むことで、関連科目の授業内容を振り返り、確認をしておくこと(各回1時間)。 授業前課題は授業前日までに教務部前ボックスに提出すること。</p> <p>第1回授業 「治る力を引き出す 実践!臨床栄養」 p1～9 第2回授業 「治る力を引き出す 実践!臨床栄養」 p26～42 「栄養科学イラストレイテッド解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第2版」 p45～63 第3回授業 「治る力を引き出す 実践!臨床栄養」 p43～49 「栄養科学イラストレイテッド解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第2版」 p45～63 第4回授業 「治る力を引き出す 実践!臨床栄養」 p43～49 「栄養科学イラストレイテッド解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第2版」 p45～63 第5回授業 「治る力を引き出す 実践!臨床栄養」 p50～69 「日本人の食事摂取基準〈2015年版〉」 p153～163 「栄養科学イラストレイテッド 生化学 改訂第3版」 p81～90 第6回授業 「治る力を引き出す 実践!臨床栄養」 p50～73、p227～231 「栄養科学イラストレイテッド 生化学 改訂第3版」 p48～58 第7回授業 「治る力を引き出す 実践!臨床栄養」 p56～73、p250～223 第8回授業 「治る力を引き出す 実践!臨床栄養」 p227～231 「日本人の食事摂取基準〈2015年版〉」 p420～424 「国民健康・栄養調査」の結果のうち、関連部分のプリントを配布する</p> <p>各回授業後の課題を提出する(各回1時間)</p>					
成績評価の方法	授業前課題 30%、授業後課題 30%、定期試験 40%で評価するが、授業態度によっては減点することがある。				

テキスト	<p>主テキスト 「治る力を引き出す 実践!臨床栄養」東口高志編 (医学書院) ISBN978-4-260-01030-6</p> <p>副テキスト 「日本人の食事摂取基準 (2015年版)」佐々木 敏 監修 (第一出版) ISBN 978-4-8041-1312-8</p> <p>「栄養科学イラストレイテッド解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第2版」 志村二三夫ほか著 (羊土社) ISBN 978-4-7581-0876-8 ※体の仕組みと働き I・II で使用した教科書</p> <p>「栄養科学イラストレイテッド 生化学 改訂第3版」園田勝編 (羊土社) ISBN978-4-7581-1354-0 ※生化学で使用した教科書</p> <p>その他、必要に応じてプリントの配布を行う。また、他の科目の教科書の持参を指示することがある。</p>
参考図書	<p>「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3]栄養学 第12版」 小野章史、杉山みち子、鈴木志保子、外山健二、中村丁次(医学書院) ISBN978-4-260-01993-4</p> <p>「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 第10版」 坂井建雄、岡田隆夫(医学書院) ISBN978-4-260-03171-4</p>
備考	<p>本科目の受講には生化学、栄養学総論、体の仕組みと働き I・II の理解が前提となるので、これらの科目をよく理解しておくこと。</p> <p>質問は、授業後に教室で受け付けます。</p> <p>授業時に指示した課題について、添削後返却しますので、以降の振り返り学修に活用する等よく復習した上で試験に望んでください。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図を確認してください。</p>
授 業 計 画	
<p>第1回 栄養、栄養素、栄養学および食事の意義と役割について 治るための栄養、生きるための栄養について考える</p> <p>第2回 栄養と健康・疾病の関連および消化と吸収の調節機構について 栄養素の消化・吸収及び利用にかかわる臓器間の連携について考える</p> <p>第3回 経腸栄養について① 経腸栄養剤や経静脈栄養の成分について、消化・吸収の知識から考える</p> <p>第4回 経腸栄養について② 経腸栄養や経静脈栄養が自分自身に必要な時を考える</p> <p>第5回 エネルギー源としての三大栄養素とその他の栄養素の役割 健常時の栄養素の利用について考える</p> <p>第6回 エネルギー代謝における各種栄養素の役割 疾患時の栄養素の利用状態の変化について考える</p> <p>第7回 疾患時の栄養素の栄養管理について 経腸栄養と経静脈栄養、それぞれ投与できる栄養素、できない栄養素について考える</p> <p>第8回 栄養素の摂取状況と生活習慣病の関連について 2型糖尿病の発症と栄養素の摂取状況との関連について考える</p> <p>学生の理解度や祝祭日、大学行事等によりの授業順序の入れ替えや授業内容の変更をする場合がある。</p>	